

2024年の国際石油市場見通し

- OPECプラスは市況を下支えできるか？ -

一般財団法人日本エネルギー経済研究所

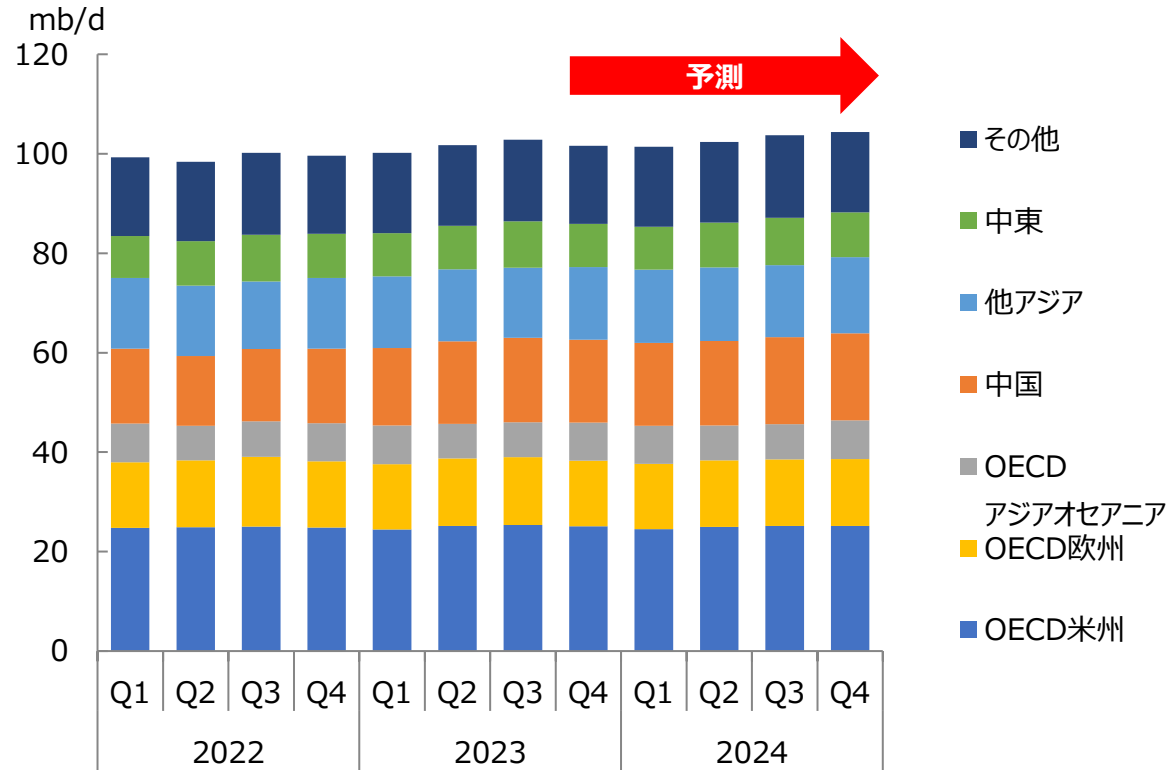
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット
石油グループマネージャー 研究主幹
森川 哲男

本報告のポイント

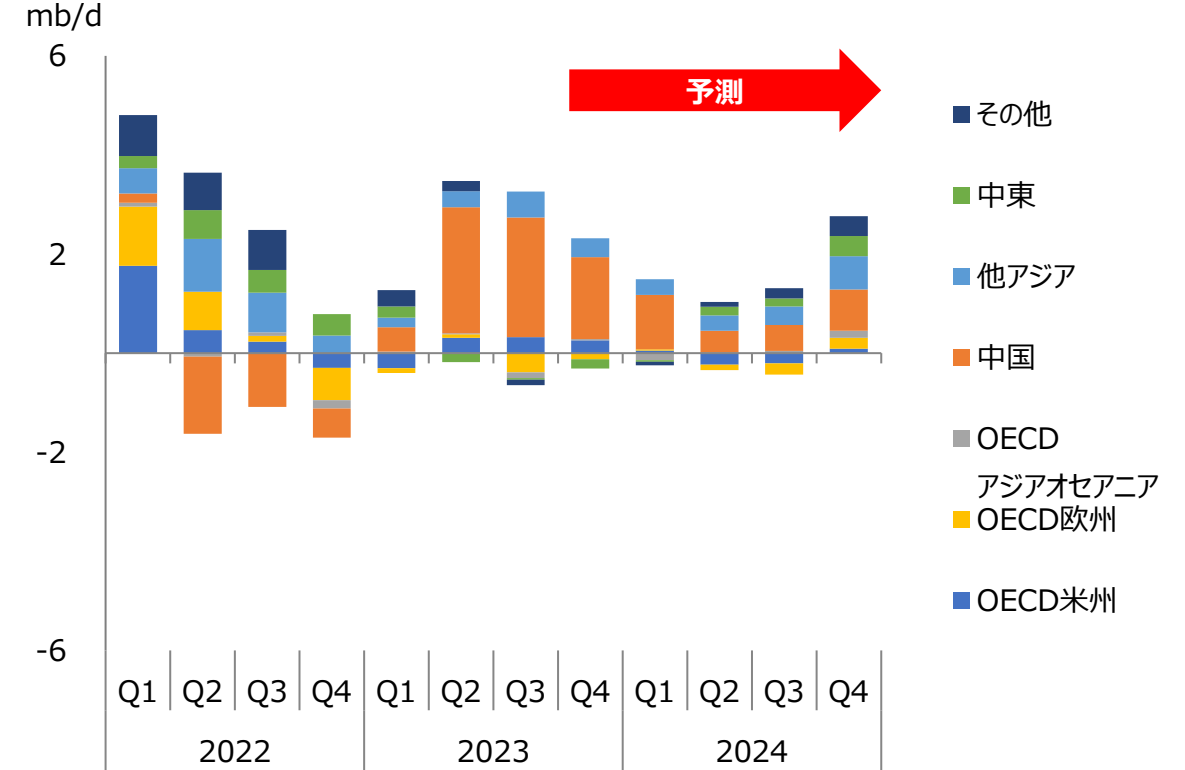
- ✓ 2024年の需要は1億300万b/dと緩やかに増加。2024年第1四半期のOPECプラス有志国の自主的追加減産にもかかわらず、年間ベースでは、米国など非OPECプラス諸国の増産もあり1億310万b/dとなる。その結果、通年ではほぼ均衡か、若干の供給超過に。
- ✓ イスラエル・ハマス軍事衝突による石油供給への影響は現時点では限定的も、米国制裁強化がされた場合のイラン生産量への影響や油田・タンカー等への攻撃による供給途絶リスクに注目。
- ✓ 2024年のBrent価格は\$85/bblが中心水準と予想。OPECプラスの結束、景気減速による需要低迷、イラン生産量等中東情勢が主要な不確実性。

石油需要

需要



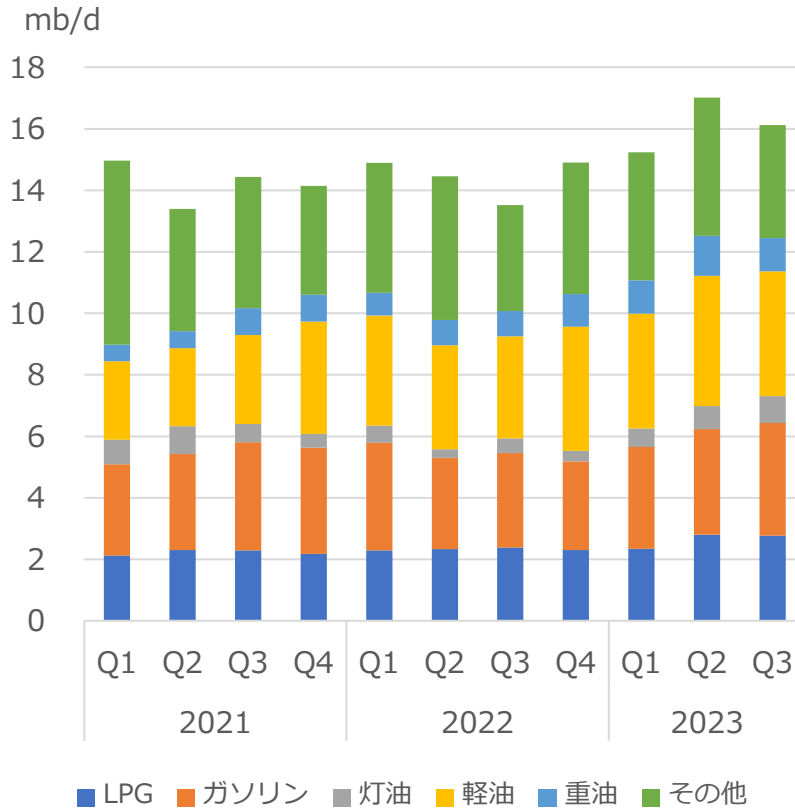
需要増減（前年同期比）



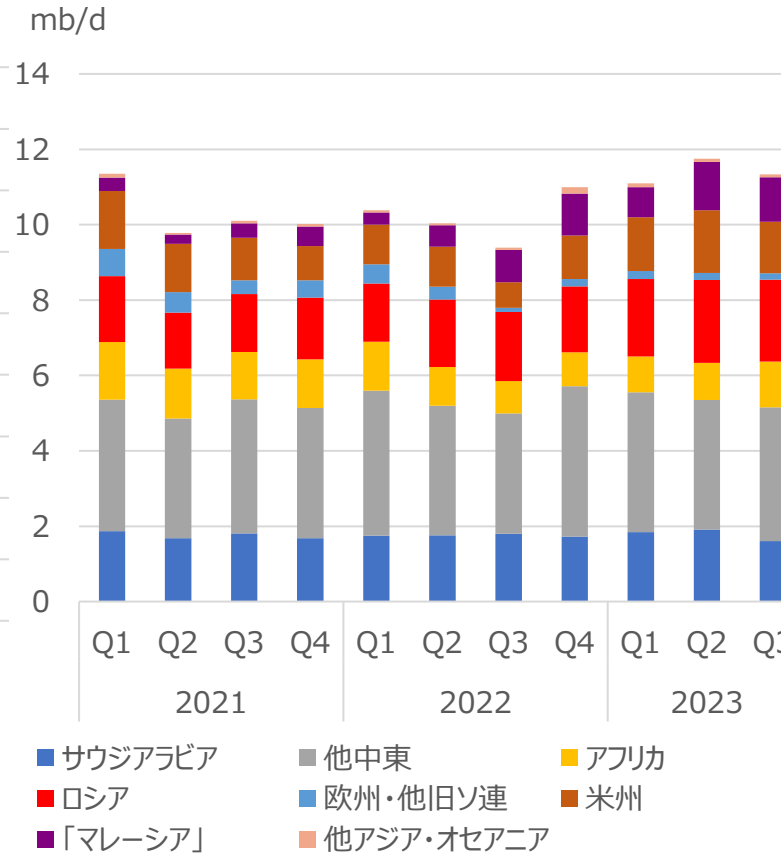
出所: IEA、日本エネルギー経済研究所

- 2023年第3四半期の需要は前年同期比260万b/d（2.6%）増の1億280万b/d。中国が牽引し需要は堅調に増加。
- 2024年の需要は前年比130万b/d（1.2%）増の1億300万b/dと予測。景気減速による需要低迷は大きなリスク。

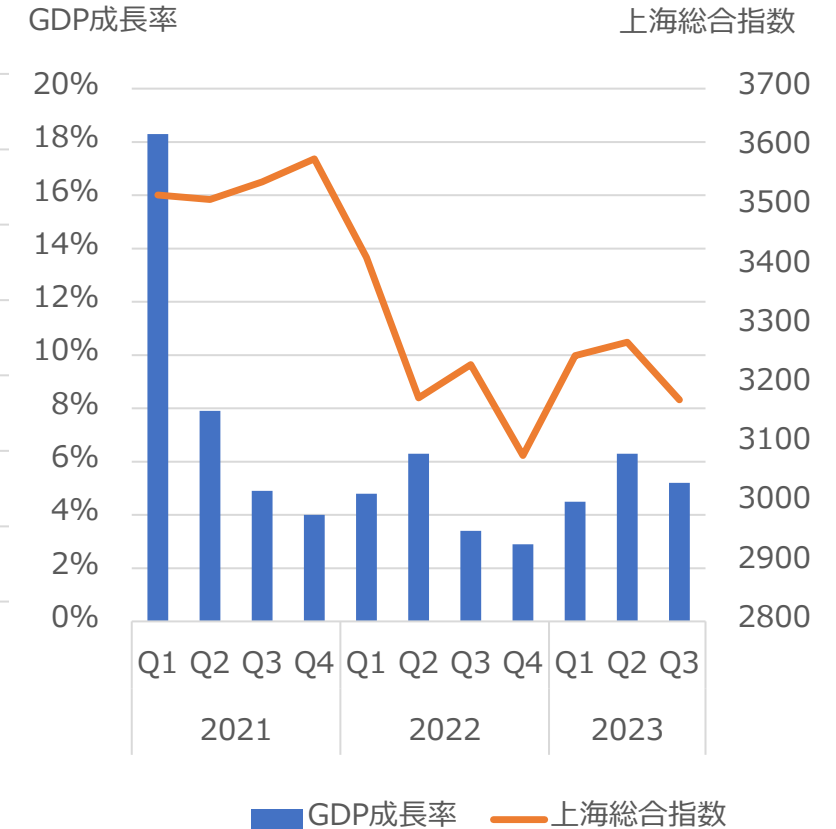
需要



輸入量



GDP成長率と株価

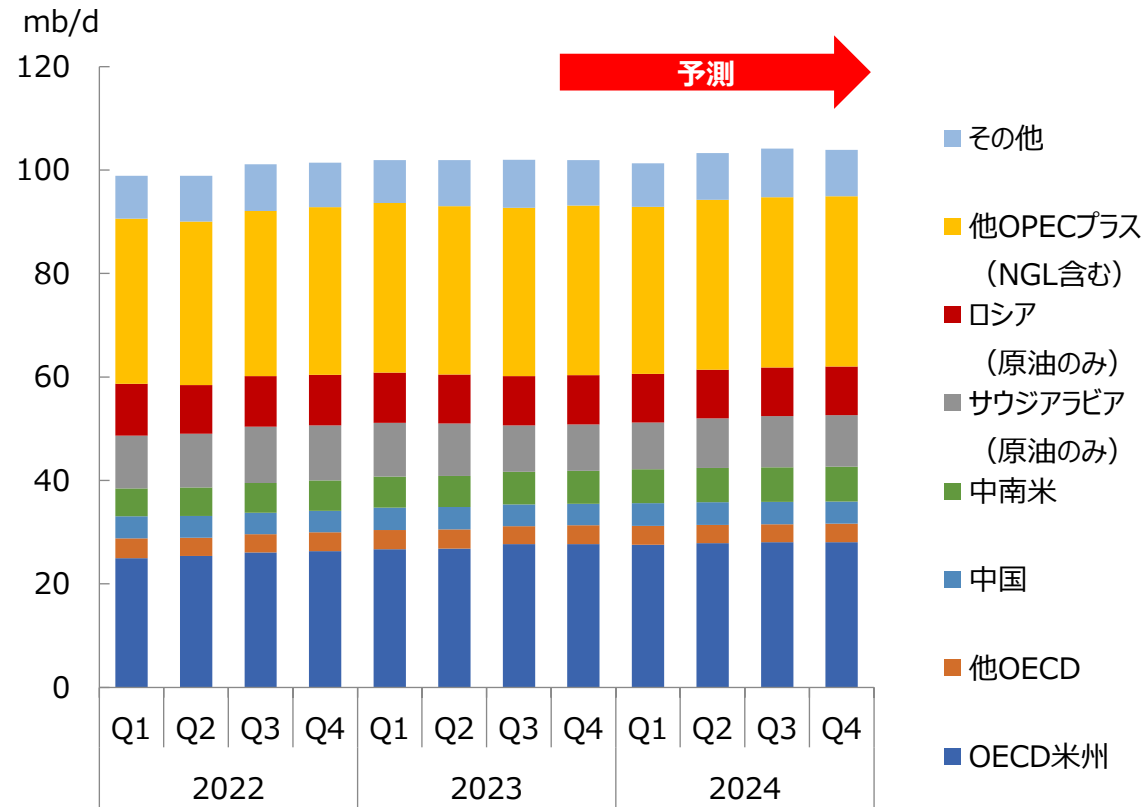


出所: APEC、China OGP、JLC

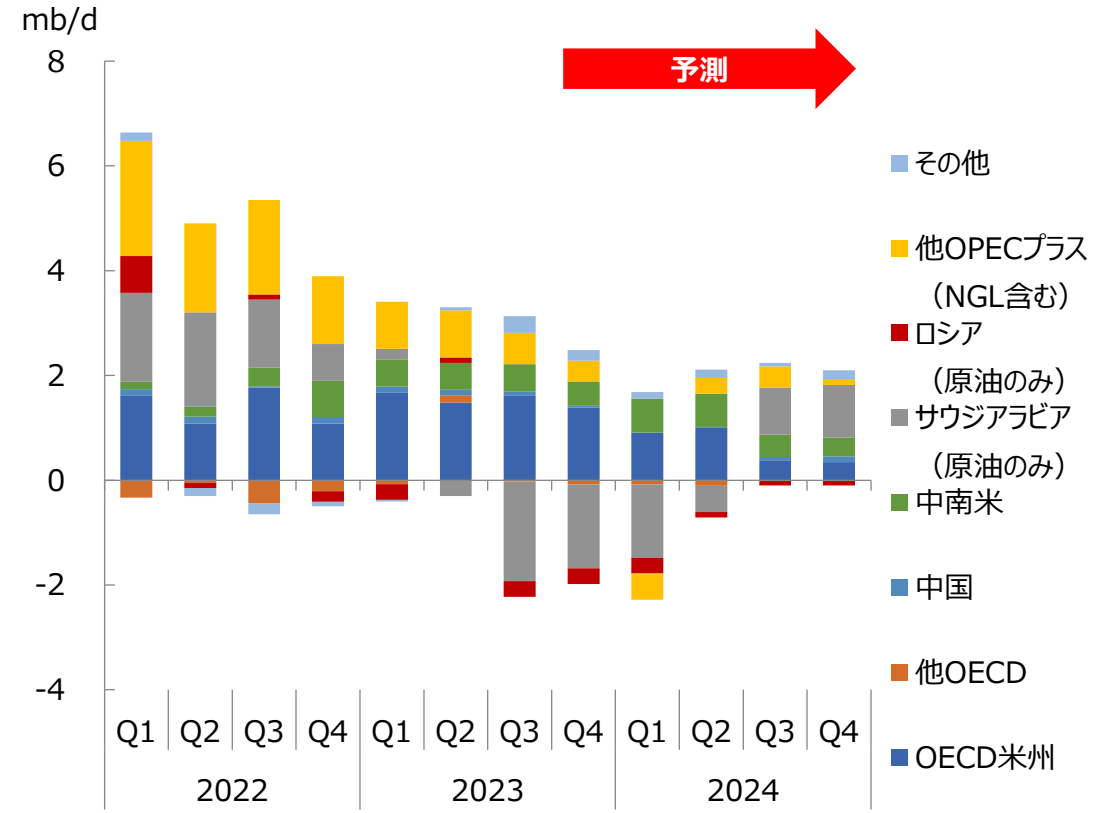
- 2023年第3四半期の需要は前年同期比260万b/d（19.2%）増の1,610万b/d。
- 需要は急激に増加しているが景気減速懸念も強い。
- ロシア産原油輸入量は高水準で推移。「マレーシア」産輸入量増加も米国制裁対象になる可能性。

石油供給

生産量



生産量増減（前年同期比）

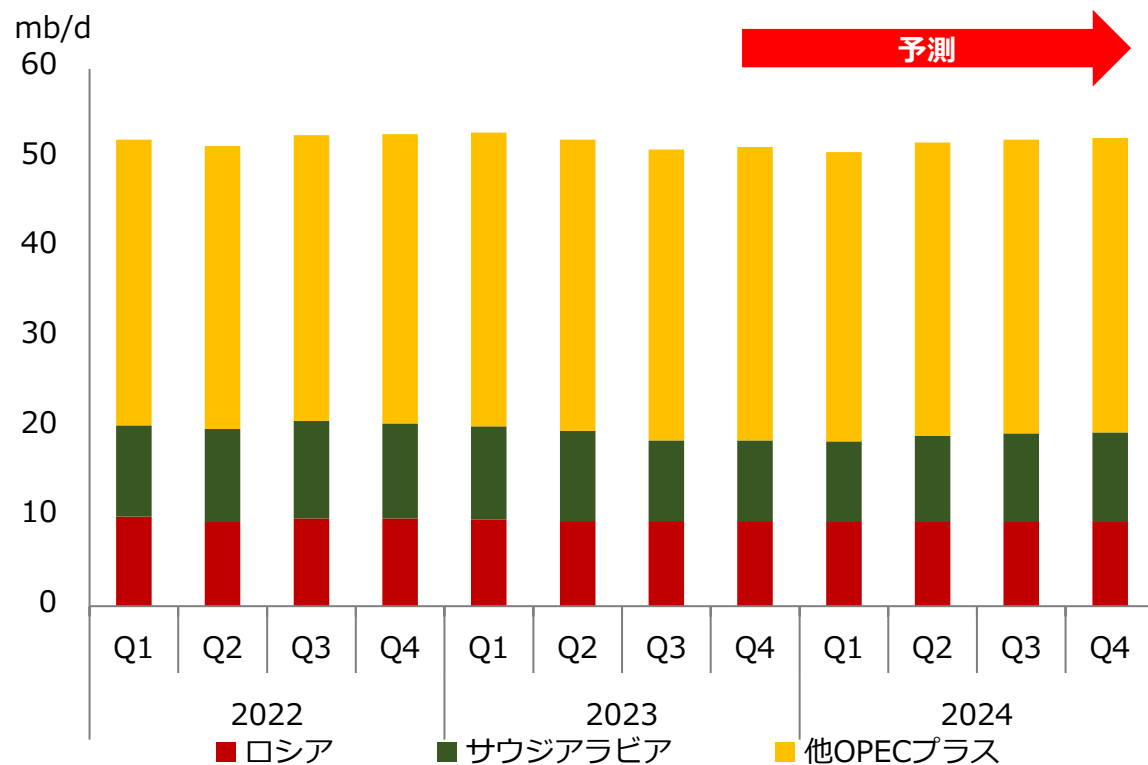


出所: IEA、日本エネルギー経済研究所

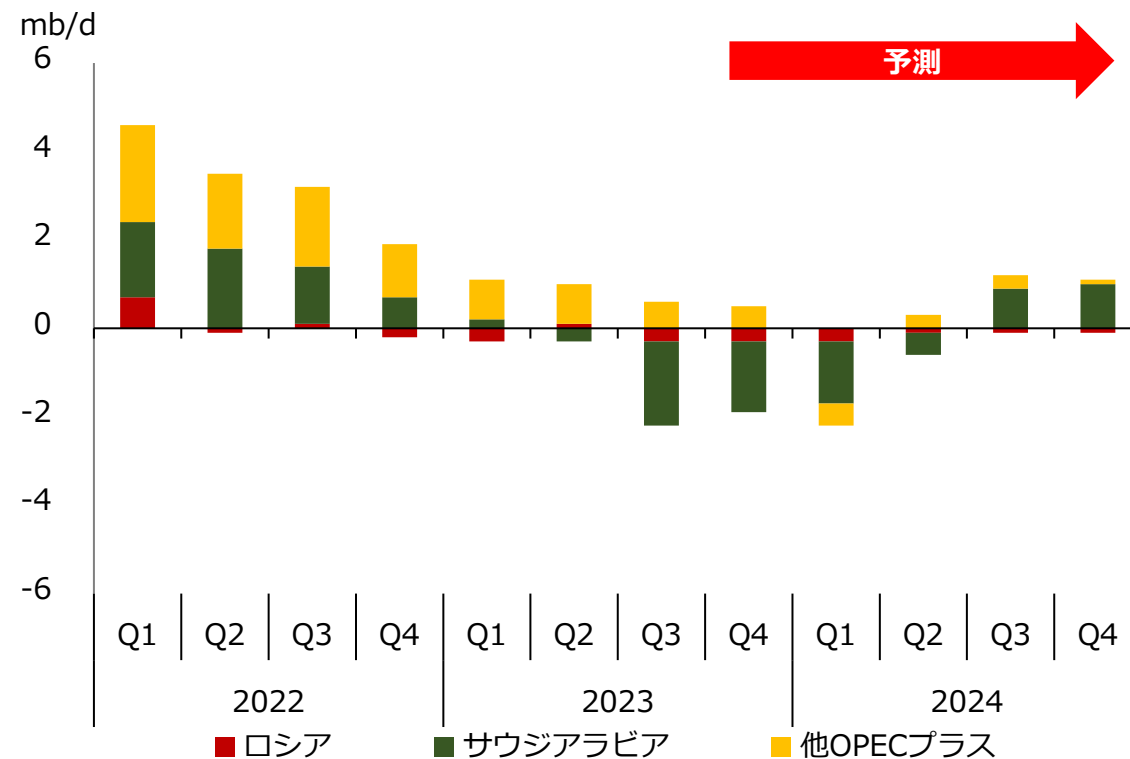
- 2023年第3四半期の生産量は前年同期比90万b/d（0.9%）増の1億200万b/d。OPECプラスの減産強化が影響し、供給増加ペースは需要に追いついていない。
- 2024年の生産量は前年比120万b/d（1.2%）増の1億310万b/dと予測。米国等非OPECプラス諸国の増産も寄与。

OPECプラス

生産量



生産量増減（前年同期比）



出所: IEA、日本エネルギー経済研究所

- 価格下支えのため段階的に減産強化。2023年第3四半期の生産量は前年同期比160万b/d（3.0%）減の5,100万b/d。一方、イランの生産量は同43万b/d（16.0%）増の311万b/d。

OPECプラスの生産目標（自主減産含む）

単位：1,000 b/d

		生産目標				生産量実績
	国名	2022年11月-2023年4月	2023年5-12月	2024年1-3月	2024年4-12月	2023年10月
2024年1-3月 有志国自主減産・ 輸出量削減	サウジアラビア	10,478	5-6月は9,980 7-12月は8,980	8,980	8,980 - 10,478	9,010
	UAE	3,019	2,875	2,712	2,712 - 3,075	3,250
	クウェート	2,676	2,548	2,413	2,413 - 2,548	2,570
	カザフスタン	1,628	1,550	1,468	1,468 - 1,550	1,630
	アルジェリア	1,007	959	908	908 - 959	960
	オマーン	841	801	759	759 - 801	800
	ロシア	10,478 (2023年3-4月は9,410)	9,410	9,410	9,410	9,530
その他減産参加国	イラク、ガボン、アンゴラ、コンゴ、 赤道ギニア、ナイジェリア、 アゼルバイジャン、ブルネイ、 マレーシア、スーダン、バーレーン、 メキシコ、南スーダン	11,729	11,510	11,310	11,510	10,440
	合計	41,854 (2023年3-4月は40,788)	5-6月は39,633 7-12月は38,633	● 37,960	38,160 - 40,331	38,190
減産免除国	イラン、リビア、ベネズエラ	-	-	-	-	5,000

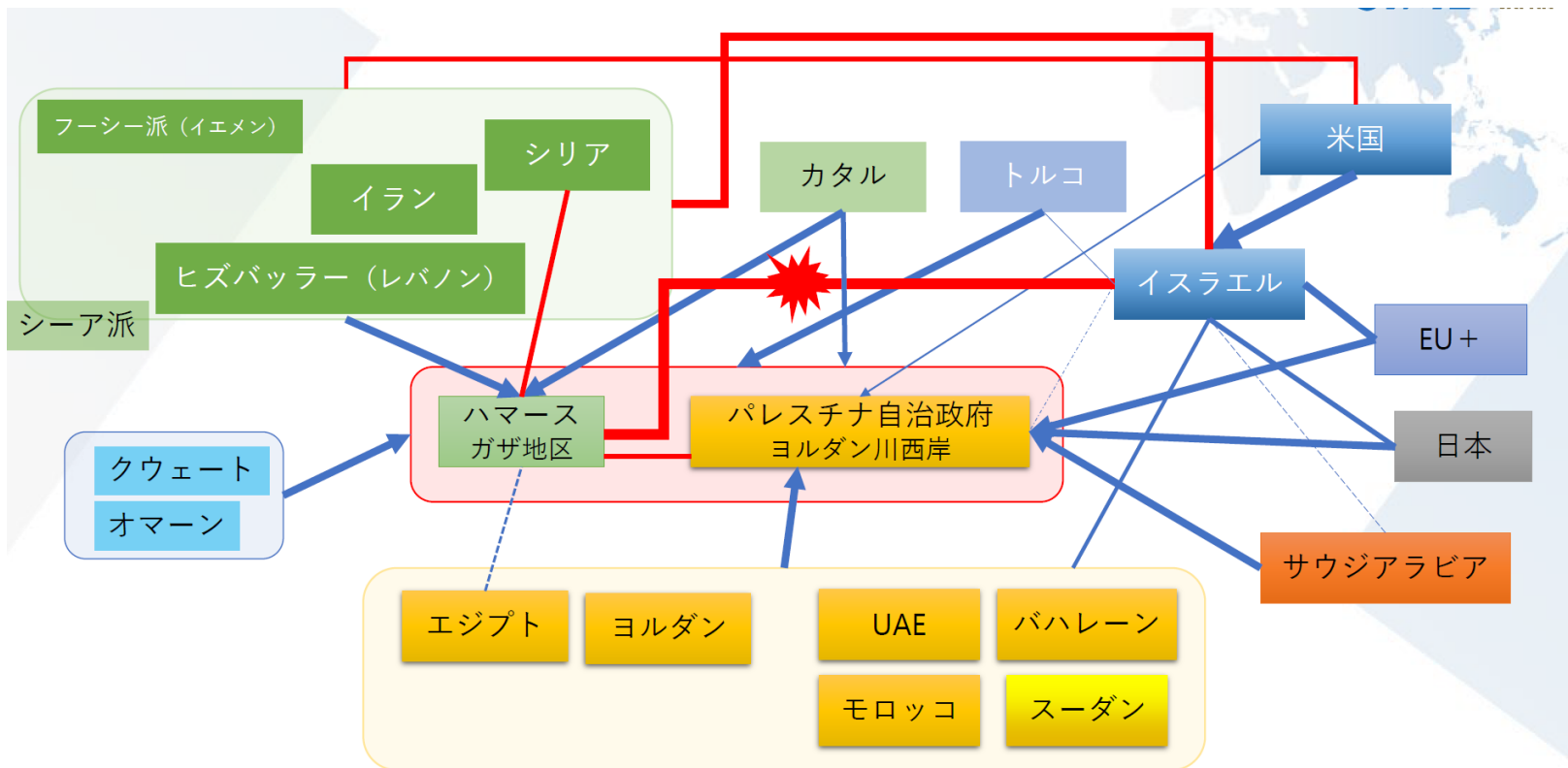
註：ロシアは2023年5月以降に30-50万b/dの輸出量削減を実施。ロシア以外の有志国は2024年4月以降、段階的に減産を緩和。

出所：OPEC

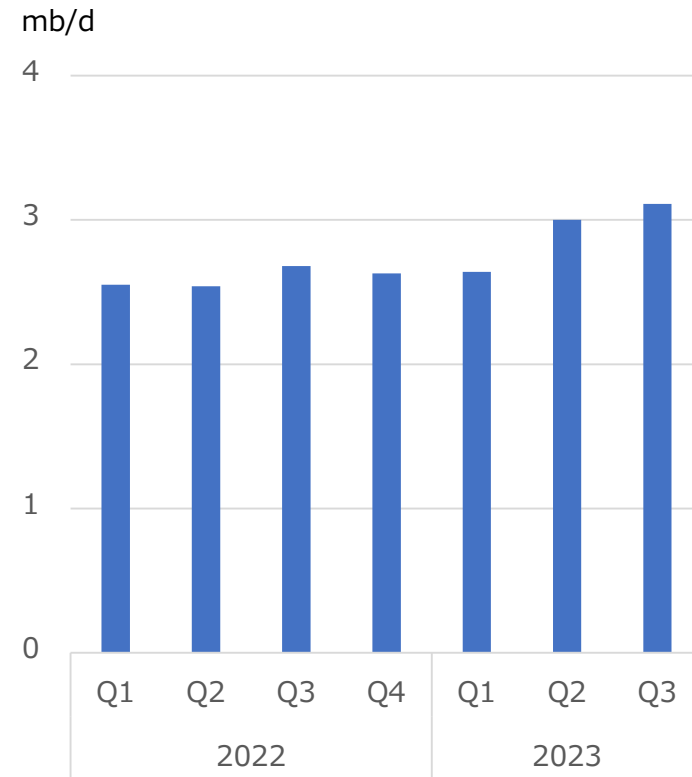
- 2024年1-3月にOPECプラス有志国が220万b/dの追加減産・供給量削減実施を決定。現行減産量からの深堀分は70万b/dにとどまるが、短期的な価格暴落は回避。
- OPECプラス全体の追加減産は合意出来ず、アンゴラは自国生産目標下方修正に反発しており、減産体制維持と結束の度合いに注目。

イスラエル・ハマス軍事衝突

各勢力の関係



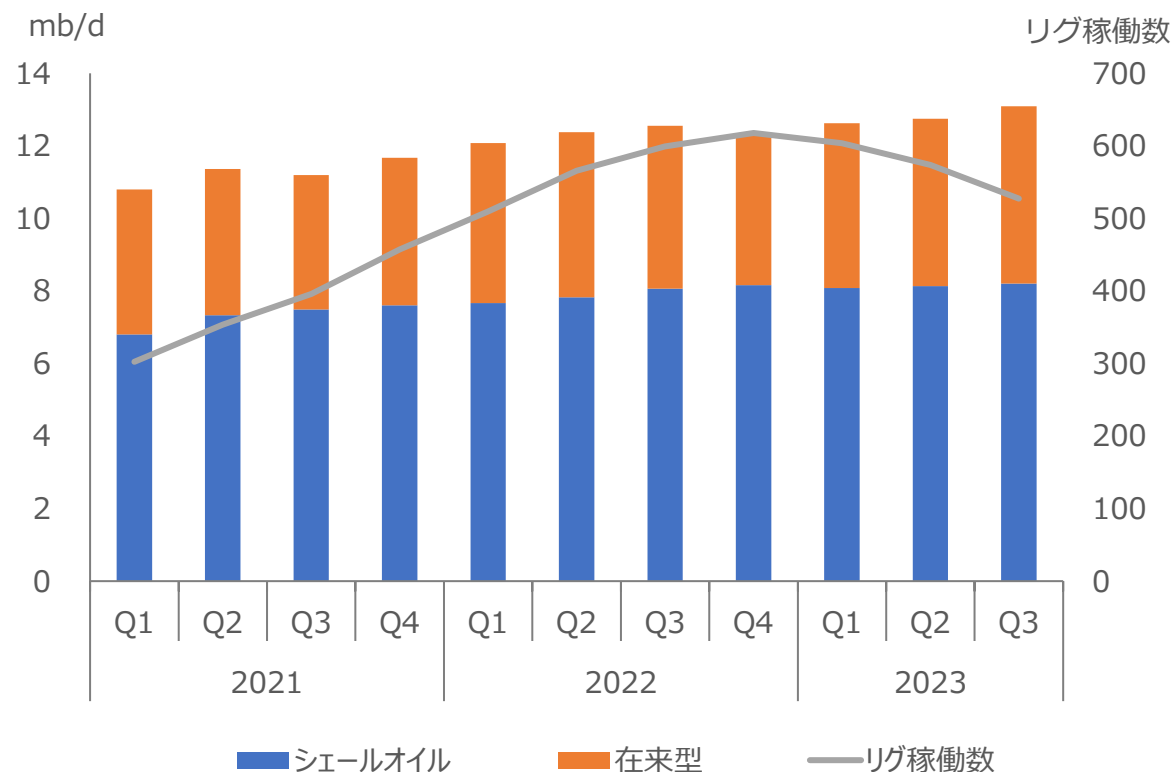
イランの原油生産量



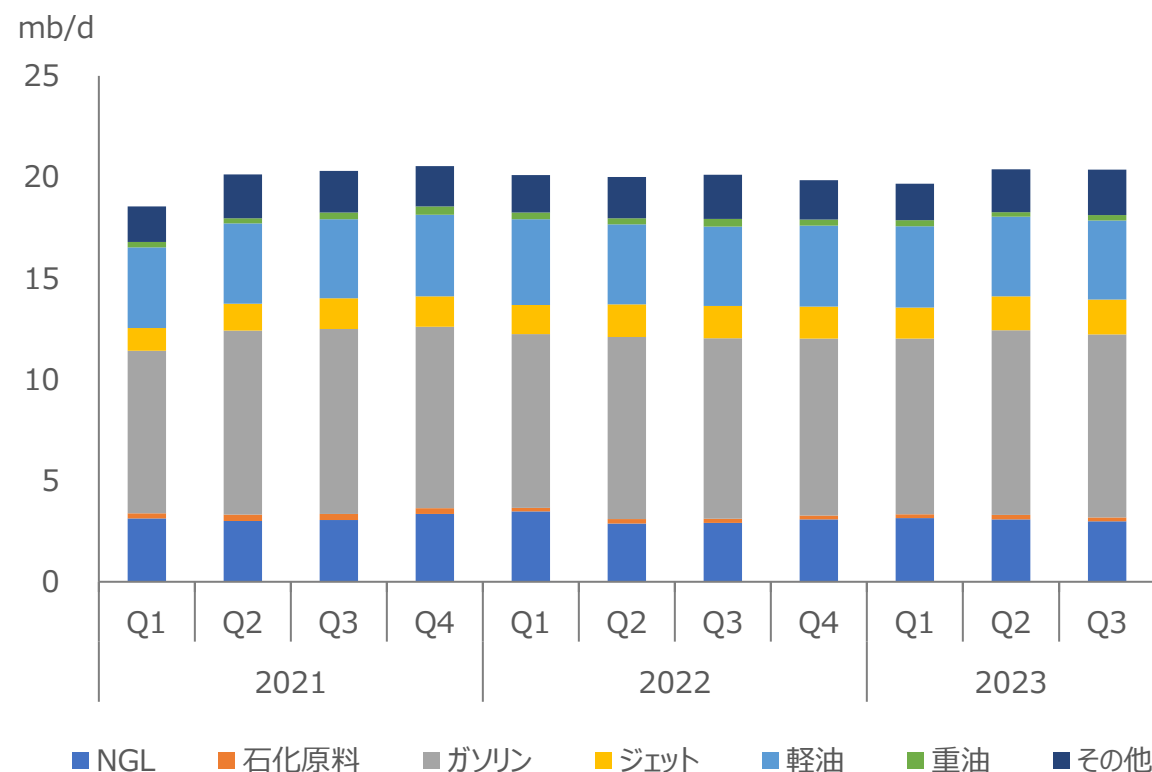
出所: 日本エネルギー経済研究所・中東研究センター、IEA

- イスラエル・ハマス軍事衝突が直接的に石油供給途絶を起こす可能性は限定的。
- 但し、米国がハマスやヒズボラを支援するイランの石油輸出に対する制裁を強化すればイラン産油量減少要因に。
- また、フーシー派等による油田・タンカー攻撃といった供給途絶リスクも。

生産量



需要

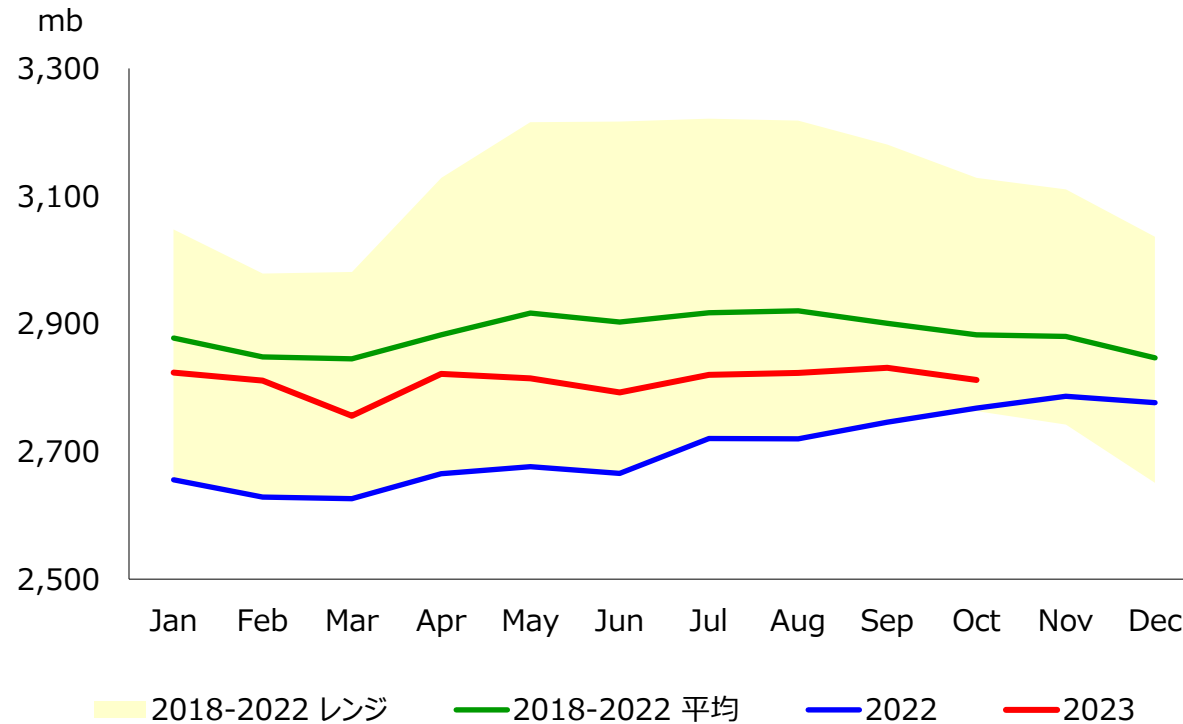


出所: EIA

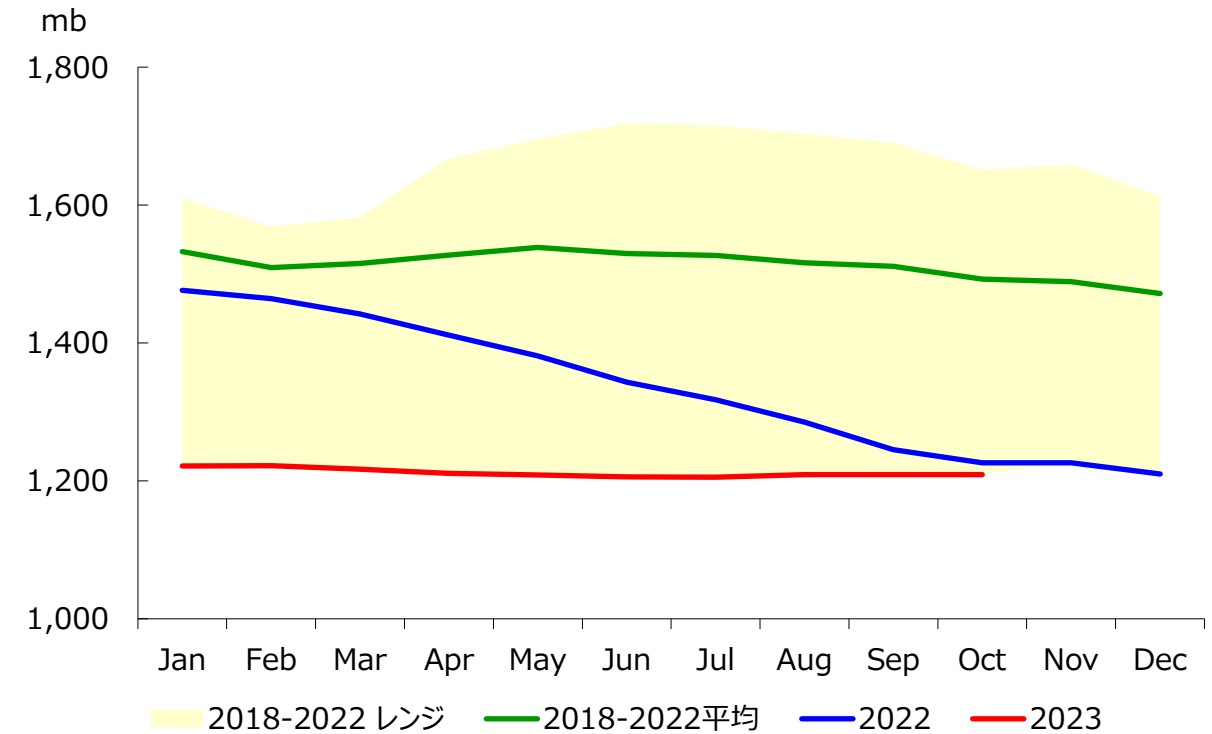
- 2023年第3四半期の生産量は前年同期比100万b/d（8.7%）増の1,309万b/d。リグ稼働数減少も生産性の高い油井への集中で緩やかな増産を維持。
- 2023年第3四半期の需要は前年同期比26万b/d（1.3%）増の2,040万b/dと堅調。

OECD商業在庫・国家備蓄

商業在庫



国家備蓄

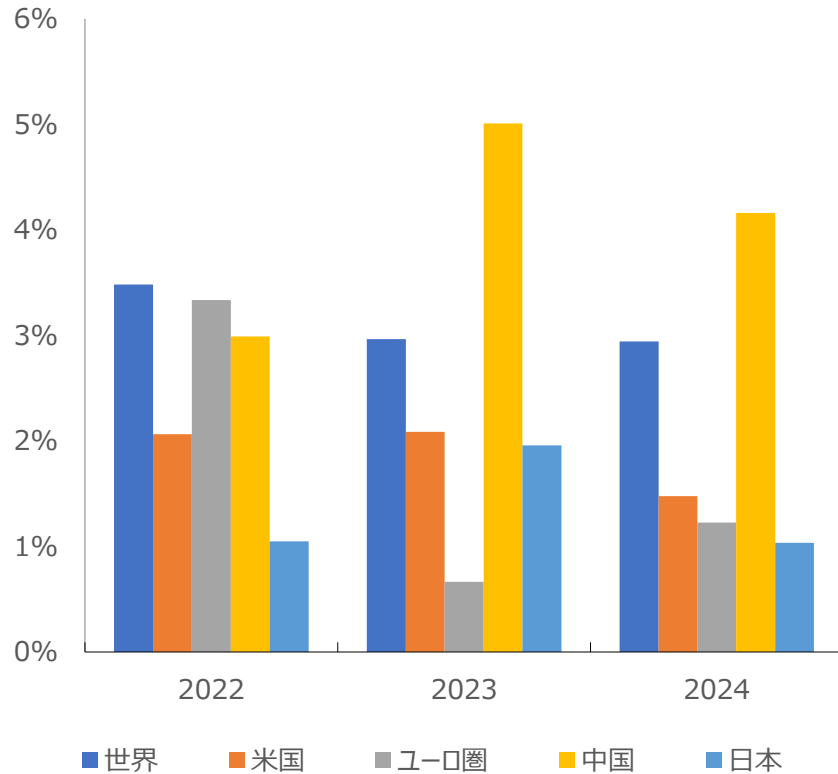


出所: IEA

- 2023年10月のOECD商業在庫は28.1億バレル、国家備蓄は12.1億バレル
- 2022年の備蓄放出や需給緩和によって商業在庫は増加したがOPECプラス減産強化が影響し5年平均値には届いていない。

マクロ経済・金融市場

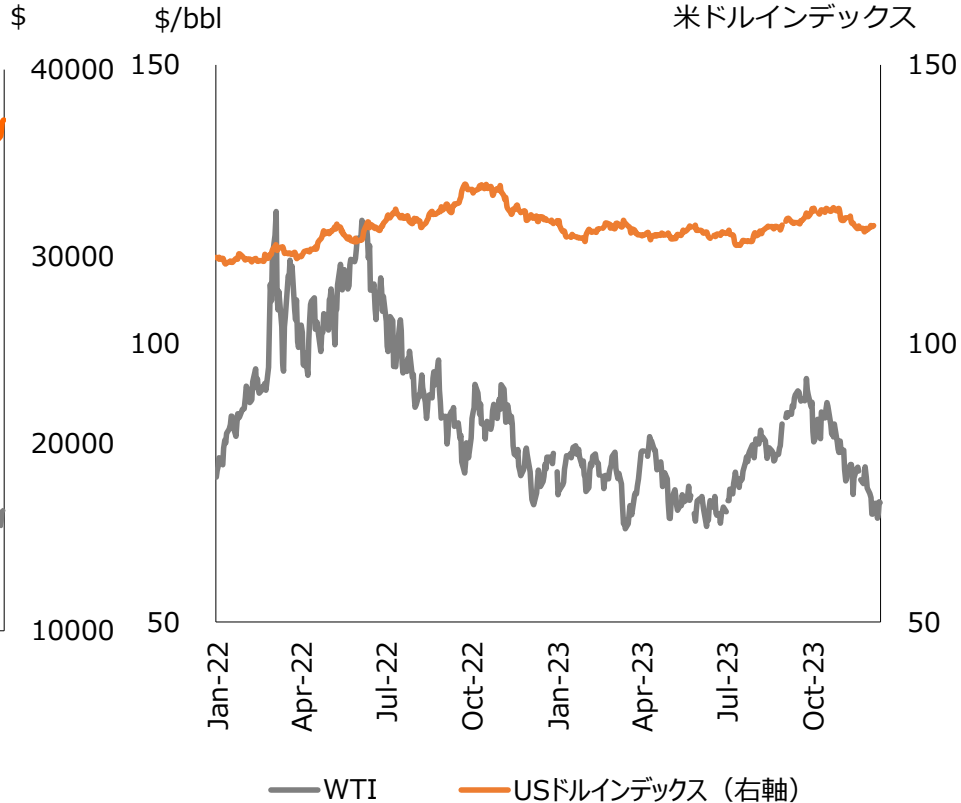
GDP成長率



ダウ平均株価



為替 (ドルインデックス)

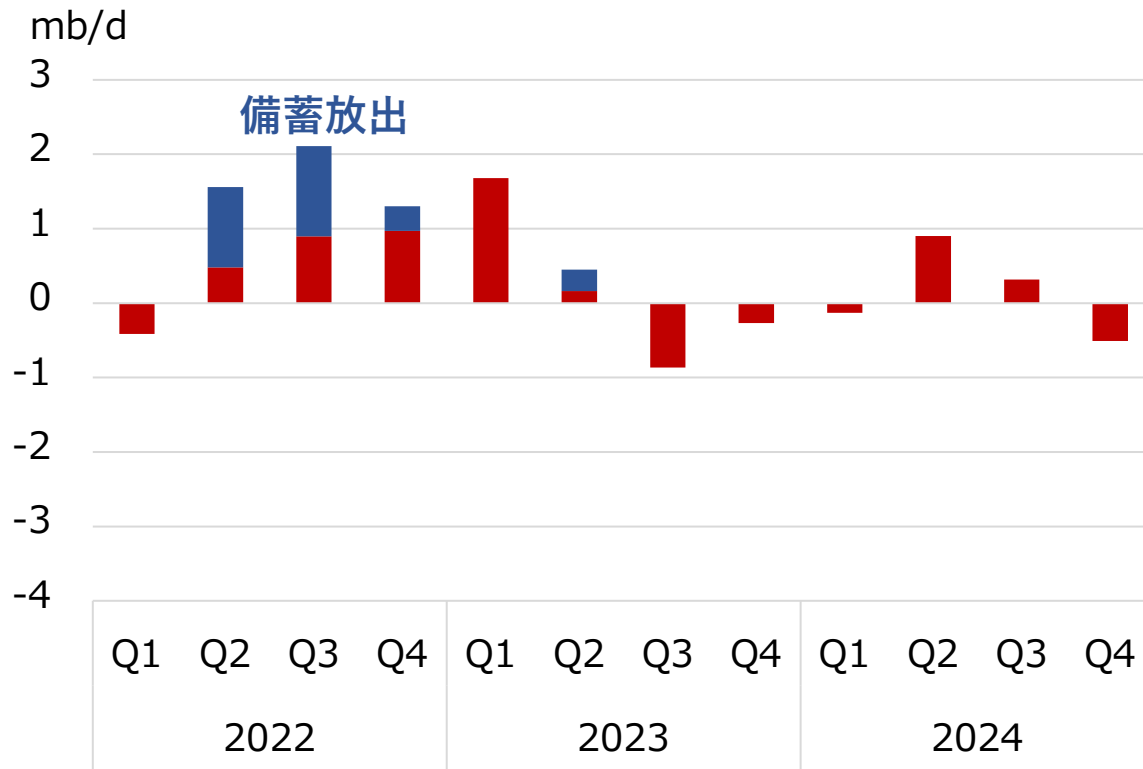


出所: IMF、FRB、CME

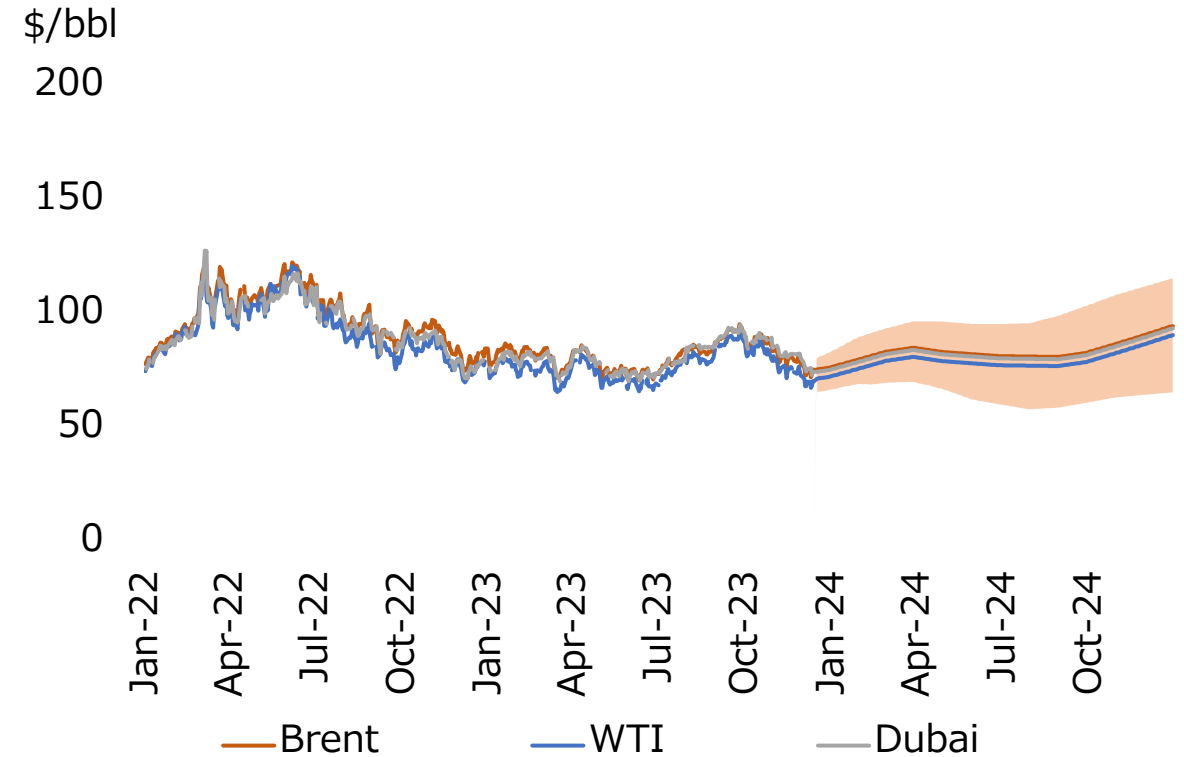
- IMFは2024年のGDP成長率を2.9%と予測。中国不動産危機、利上げの影響、気候変動・地政学的対立をリスク要因として指摘。
- 一方、FRBが2024年に利下げするとの見方が広がりダウ平均株価は史上最高値を更新。

2024年の石油需給バランス・価格見通し

需給バランス



価格



出所: IEA、CME、ICE、日本エネルギー経済研究所

- 2024年第1四半期のOPECプラスの追加減産にもかかわらず通年ではほぼ均衡か若干の供給超過に。
- 2024年のBrent価格は\$85/bblが中心水準と予想。
- 主要な不確実性としてOPECプラスの結束、景気減速による需要低迷、イラン生産量等中東情勢に注目。